



新見市男女共同参画情報紙

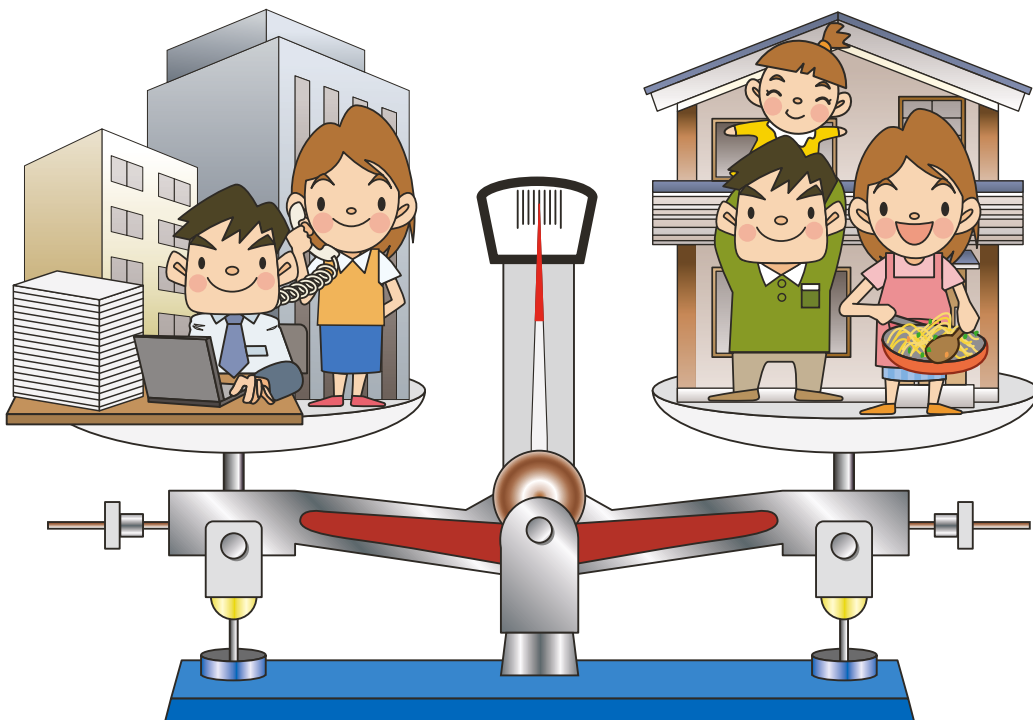
りぼん

vol.18
2014.8



ワーク・ライフ・ バランスってなんだろう？

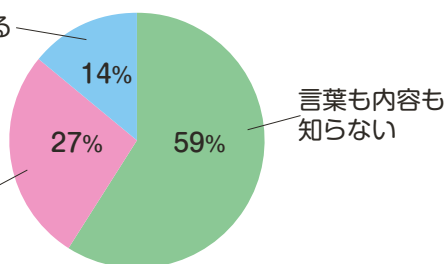
今回は、新見市内の幼稚園・こども園・保育所に子どもを通わせている子育て世代の保護者435人からのアンケート結果を参考に特集します。



あなたは「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか？

言葉も内容も知っている

言葉は聞いたことはあるが、内容までは知らない



言葉も内容も知らない

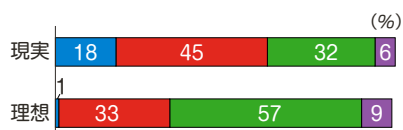
ワーク・ライフ・バランスとは、働くすべての人が、「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のことです。

ライフ編

理想と現実どうなっているの？

子どもは何人？

■1人 ■2人 ■3人 ■4人以上

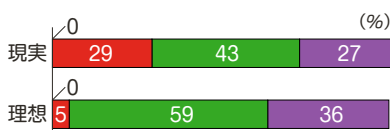


アンケート意見 (一部抜粋)

●私が出産で休むことで職場に迷惑が掛かると思うと、3人目がほしい気持ちはありますが、なかなか難しいと思います。

子育ては誰がする？

■夫が中心 ■妻が中心
■夫婦で協力 ■家族で協力

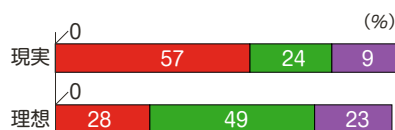


アンケート意見 (一部抜粋)

●夫が育児休暇をとるのは難しいです。子どもが小さいうちは、定時に帰れる日が週に数日あると子育てがしやすいと思います。
●「父子手帳」があれば男性も育児に関わりやすいと思います。

子どもの看護は誰がする？

■夫が中心 ■妻が中心
■夫婦で協力 ■家族で協力



アンケート意見 (一部抜粋)

●まだまだ子育てに理解のある会社は少ないと思います。運動会のために、休みを取るのでもさへ困難で、子どもの行事や看病は妻がして当たり前みたいな風潮があります。

理想は「夫婦
家族で協力」
が多いけど...



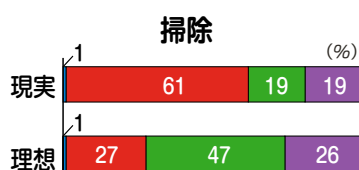
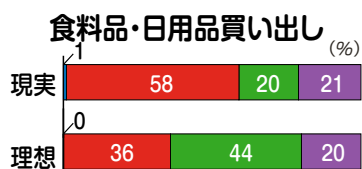
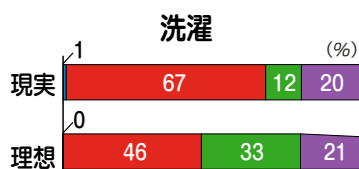
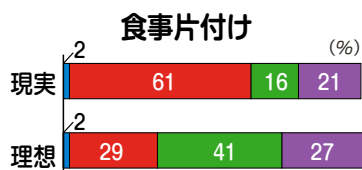
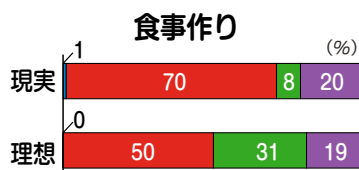
現実はお母さんが
中心だね



みんなであ
せにやあ
おえまあ。



■夫が中心 ■妻が中心 ■夫婦で協力 ■家族で協力

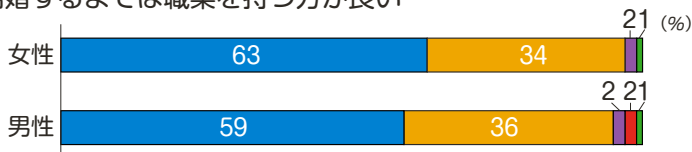


ワーク編

働き続けるのは大変？

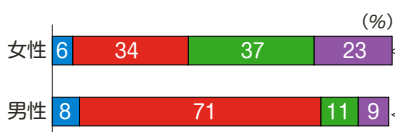
女性が職業を持つことについて、どう思う？

- 子どもができて職業を持つ方が良い
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方が良い
- 子どもができるまでは職業を持つ方が良い
- 女性は職業を持たない方が良い
- 結婚するまでは職業を持つ方が良い



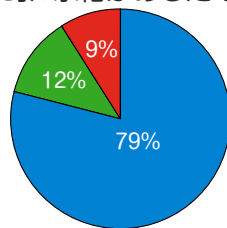
あなたの職業は？

- 自営業
- 正社員
- 非正規社員
- 無職・求職中



無職・求職中の理由は？

- 家事・育児・介護の負担が大きいため
- 希望する仕事(職種・条件)がない、またはその仕事につけないため
- 経済的に余裕があるため

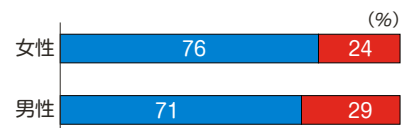


アンケート意見 (一部抜粋)

- 核家族で子育てをしながら夫婦共に正社員で働くことは大変です。自分の子はもっと自分で育てたいと感じます。短時間労働で、正社員の70~80%ぐらいの収入が得られたらありがたいと思います。
- 妊娠を機に退職をせまられて、辞めたという方もおられるのが事実です。もう少し、子育てなどに配慮ができる職場がふえることを願っています。
- 正社員で働いていると、残業をしなければならないこともあり、子育てしにくいと感じています。もっと短時間勤務など、雇用形態の選択肢が増えれば、子育てと仕事が両立できるのではないかといつも思っています。
- 出産を機に仕事を辞め、子ども中心の生活にあわせた仕事選びになるため、再就職先がなかなかありません。

お子さんの調子が悪い時、職場ではお休みを取りやすい？

- はい
- いいえ



アンケート意見 (一部抜粋)

- 子どもの行事や病気の時などに父親が休みを取れる職場環境を作ってほしいです。母親の方だけが職場に気をつかい休むのは不公平だと思います。
- 有休とは別に看護休暇などがあると助かります。
- 職場で一緒に働く上司や同僚の理解も大変重要だと思います。

都合に合わせて働けたらいいな



仕事と家庭の両立は難しいんかのう。



多様な働き方、生き方が選択できる社会を目指して…

安心して子どもを産み育てるためには
なにが必要だと思いますか。(複数回答)

- 出産・育児に関する経済的な支援制度の充実 (62%)
- 夫婦・家族の協力 (58%)
- 子育てに関する職場の理解や育児休暇などの
制度の利用しやすさ (45%)
- 保育サービスの充実 (42%)
- 短時間勤務やフレックスタイムなどの柔軟な
勤務形態の普及 (34%)
- 出産・子育て後に再就職のしやすさ (22%)
- 子育て中の親が相談・交流しやすい環境 (9%)
- ひとり親家庭に対する支援の充実 (6%)

残業を控えて家族で過ごす時間を増やしたり、有給休暇を取って趣味を楽しんだり、育児休暇を取ることだってワーク・ライフ・バランスです。働く女性や男性だけでなく、独身者や、専業主婦、高齢者など、すべての人が日々の暮らしを豊かにするためには、それぞれの望む形でバランスを取ることが大切なのではないでしょうか。



家族で過ごす時間を
増やします!!

編集後記

「ワーク・ライフ・バランス」、日本語では「仕事、人生、釣り合い」になるのか？なにやら、仰々しい単語が並んでいる。私も耳慣れない単語であり、理解には到底及ばなかった。簡単にいうと、「身近なことから男女がお互い尊敬し協力をして、より住みやすい環境の社会を築いていくこと。」だそうだ。

しかしながら、いざ実践となると、なかなか困難なようで、今回アンケートに回答していただいた、子育て世代の方々の方々の苦労がみてとれた。「仕事に追われている」、「仕事と子育ての両立が難しい」などといった状況は、社会全体の活力を低下させ、少子高齢化や人口減少などといった様々な問題と関係しているといわれている。

内閣府が実施した「少子高齢化と男女共同参画に関する調査」によると男女ともにワーク・ライフ・バランスがとれていると感じる人の方が、仕事への意欲が高い傾向にあり、仕事へも良い影響をもたらしているとのデータも示されている。ワーク・ライフ・バランスの実現のためには、官と民が一体となり社会全体で取り組んで行く必要があります、そのために、まず、ひとりひとりがワーク・ライフ・バランスを意識しながら生活することが重要なのではないだろうか。

この、りぼんの編集後記執筆中は、4年に一度のサッカーの祭典の真っ最中であった。前回の王者である無敵艦隊のつまずき、サムライブルの停滞、セレソンの惨敗、散歩する司令塔、怪我に泣いたエースなど、今回も話題にはことかかない大会であった。そんな中、お目当てのチームが持ち前のゲルマン魂を発揮して、優勝したことはこの上なくうれしいことでもあった。深夜、早朝と、眠い目をこすりながら、テレビ観戦を続けていた甲斐があったというものだ。僕はといえば寝不足で、どうも仕事がおろそかになってしまった1ヵ月間であったようだ。本人は、あんまし意識は無かったのだが…。

同僚から「また、見ていましたね。」と何度も言われた。仕事をしながら、午後のひと時、居眠りをしていれば一目瞭然である。睡魔のやつは相当な手練れであると再認識させられた。しかしながら、仕事のほうは、僕がこのような体たらくでも、順調に片付いた期間でもあった。ようするに、僕がいても、いなくても、物事は進んでいくようである。

こんな状況を、ワーク・ライフ・バランスがとれているのだと、こじつけている自分がある。